

令和6年度 第3回 大学院セミナー

2024年 4月 1日

分野名 (責任者名)(内線)	医歯薬学総合研究科 先進予防医学共同専攻 腫瘍・診断病理学分野 (原研病理) 責任者名(中島正洋) 内線(7105)
演題	骨軟部腫瘍の分子病理と診断・治療・病態解明への応用
講師等	岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 病理学(腫瘍病理)教授 山元 英崇 先生
概要	<p>骨軟部腫瘍は頻度が少ない割に組織型が多く、互いに形態的に類似するため、しばしば病理診断に難渋する。近年の分子生物学的解析の発達により、腫瘍に特徴的な遺伝子異常が次々と発見され、疾患単位の再編成が進んでいる。またこれらの知見は、免疫組織化学法、FISH法、RT-PCR法、次世代シーケンス法などに応用され、病理診断にも取り入れられている。さらに、<i>c-kit</i> 変異、<i>ALK・ROS1・NTRK</i> 融合遺伝子や <i>MDM2</i> 遺伝子増幅など分子標的治療に直結するドライバー異常も存在するため、分子異常と病理組織像を合わせた総合的な診断の重要性がますます高まっている。</p> <p>また、組織切片上で分子異常を可視化できるマーカーは、病態の解明にも役立つ。例えば、骨巨細胞腫で高頻度に存在する <i>H3.3G34W</i> 変異に対する特異的抗体を応用することで、デノスマブ(RANKL阻害薬)治療後も腫瘍細胞は生存し、それらが旺盛な骨形成に関与していることが判明し、治療戦略に活かされている。本講義では骨軟部腫瘍の分子病理の最近の進歩と、診断・治療・病態解明への応用について概説する。</p>
開催日時	2024年 6月 27日(木) 17:30~19:00
開催方法	対面 (良順会館 専斎ホール)
備考	受講を希望する場合は、e-mail: moemoe@nagasaki-u.ac.jp までご連絡ください

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語
- オンライン(Online)